

伊達政宗人生すごろく

サン・ファン・パウティスタ号

あがり

＜辞世の句＞

くもりなき 心の月を
先だてて 浮世の闇を
照らしてぞ行く

※意味は表面をみてね

ずいほうでん
いまは瑞鳳殿という
建物があるよ

自分の墓を仙台

○○○に決める。

10マスもどる

はせくらつねなが
支倉常長が

○○○法王に

会う。

1マスすすむ

大船をつくり
ヨーロッパでの

○○を目指す。

1回やすみ

政宗公 70 年の
生涯を閉じる

日本一!!

かたな が
○○と刀狩り
が行われる。

1マスもどる

○○へ出兵。
派手な姿で注目される。

サイコロもう 1 回

北上川を工事。
○の生産を増やす。

2マスすすむ

政宗 24 歳
秀吉 54 歳

豊臣秀吉に会いに
○○○へ行く。

1回やすみ

ひとりばし
人取橋の戦い

政宗の生涯で一番大きな
戦いを勝ち取った。

3マスすすむ

父、輝宗の死。

政宗 ○○ 歳。

ふりだしにもどる

○○歳で結婚。
花嫁は 11 歳!

サイコロもう 1 回

高い熱がでて生死を
さまよったんだよ!

5歳のころ

病気で ○ 目を

失明。

1回やすみ

みちのく伊達政宗歴史館へようこそ

政宗公の生涯を
すごろくで体験してみよう!



ふりだし



山形県

○○で
生まれる。

2マスすすむ

※答えは「みちのく伊達政宗歴史館」でもらえる緑色のパンフレットを見てね! 詳しく知りたい人は、伊達政宗読本を読みましょう!

◆伊達政宗公とゆかりのある人物◆

◆父:輝宗



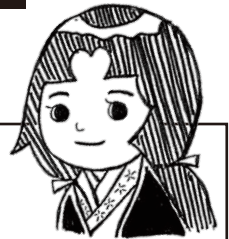
伊達家16代当主。
政宗が小さい頃からの一番の理解者。人を見る目があり、身分に関係なく優秀な人を政宗につけた。右目が見えなくなり、人前に出ることをいやがるようになった政宗を教育することで天下人(秀吉や家康)と一緒にいてもはかしくないようにした。

◆母:義姫



山形城主、最上義守の娘。
片目になり人見知りをする政宗を好きになれず、弟の小次郎ばかりをかわいがった。
しかしその後は和解し、朝鮮に政宗が渡った時には母へのお土産を探しまわり、手紙を添えて送ったりした。他にも、2人がやりとりした手紙が現在も残っている。

◆妻:愛姫



政宗の正室。
三春城主(福島)田村清頭(きよかみ)のむすめ。
(田村家は坂上田村麻呂の末裔といわれている)
政宗との間には4人の子供を授かった。
長女:五郎八姫
長男:忠宗(伊達家18代当主)
次男:宗綱(栗原岩ヶ崎城主)
三男:竹松丸

◆伊達政宗◆



えいろく
永禄10年8月3日生まれ
ようみょう ぼんでんまる
幼名:梵天丸
がた
血液型:B型
身長:159.4cm
とうしゅ
伊達家17代当主。
せんたいはんしよだいはんしゅ
仙台藩初代藩主。



◆豊臣秀吉

(政宗が産まれたとき30歳)
政宗が東北全土へと勢力を広げていった時期と、秀吉が全国を統一していった時期は重なり合っている。
政宗が小田原へ行き北条氏攻めへ参加する事は天下をとる夢を捨て豊臣家に従うことを意味していた。

◆徳川家康



(政宗が産まれたとき25歳)
政宗が秀吉から疑いをかけられた時などは助けてくれた。
⇒友好関係にあった。
家康の6男忠輝と政宗の長女、五郎八姫が結婚。
その後、政宗は徳川3代に仕えた。
【家康・秀忠・家光】

一辞世の句(最後に残した詩)一解説

一点の曇りもない気持ちを持って、月を先導にこの戦国時代を照らしながら私は自分の道を歩んできた。何も悔いることはない。

◆虎哉宗乙



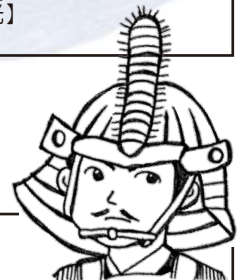
政宗の教育をした名僧。
仏教や漢学、歴史、文学などを政宗に教えた。
あるとき手を大きく鳴らさせて、今、右手が鳴ったか左手が鳴ったか何年かかってもいいから考えてみよと言った。
手は一つで鳴らすことはできない。
つまり、大事を成しとげるには何事にも他人の力が必要だと気づかせている。
すいげんじ
瑞巖寺(当時の名は円福寺)を再興(衰えたものを盛り返すこと)した。

◆片倉小十郎景綱



政宗より10歳年上。
勉強ができ、剣の名人でもあった。
ぶんぶりようどう
(文武両道)
ひこしあん
引っ込み思案の政宗の性格を大きく変えるきっかけとなった一人で、幼い政宗に手加減することなく剣のけいこをした。
政宗の一番の相談役でもあり、戦の時や決断をしなければいけないときは景綱に相談した。

◆伊達成実



政宗のいとこにあたり、1歳年下。
伊達家一といわれるほど武勇に優れた人。
政宗が関わる全ての戦に参加したといわれる。
成実の前立て(兜の前についている自身のシンボル)は毛虫をかたどったもので、毛虫は前にしか進まない=後ろにさがらない=敵に背を向けない という意味をあらわしている。